

令和 2 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校 学校長名：木皮 享 印

めざす学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる学校 改革への情熱と伝統を重んじる心を兼ね備えた生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 生徒の安心・安全を最優先に実現、維持するための取組の充実
	2 主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上
	3 高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実及びキャリア教育充実深化に向けた具体的方策の構築
	4 生徒の自主的・自律的な生活習慣の確立と生徒支援の充実及び生徒の主体的な活動を支援する取組の充実

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 桐蔭 FD による授業改善を実施する。教え込む授業から、自ら考えさせる授業への転換を図る。 教育環境を見直し、より効率的で効果的な教育体制を構築する。 教育課題を抱えている生徒に対する対応の組織化。 「桐蔭祭」をはじめとした生徒の主体的な活動の活性化を図る。 臨時休校に関わる生徒の学習面、健康面での実効的な指導体制を確立する。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					令和 3 年 3 月 3 日 実施		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善方策	
1	避難訓練や防災スクール等の災害発生時を想定した行事を実施しているが、さらに防災意識と緊急事態発生時の主体的な行動を促すべく内容の充実を図る。また、コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けて、専門家の助言を取り入れつつ、本校の現状に合わせて、安心・安全な学校を実現する取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態発生時の対応や危機管理体制が整備できているか。 感染拡大防止を意識した環境整備ができていないか。 防災・減災意識や危機管理意識が身についているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師による感染症対策講座を聴講 アレルギー疾患についての正しい知識の習得と対象生徒への具体的な対応の学習 講習会による AED 取扱や心肺蘇生法の学習 全職員の、感染症対策やアレルギー疾患対応についての正しい知識と適切な対応法の習得 全職員の、AED 取扱や心肺蘇生法の習得 災害発生時の迅速・適切な行動を意識した防災避難訓練の実施 「防災スクール」により、災害時における自他の安全を守るための主体的行動を啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の、感染症対策やアレルギー疾患対応についての正しい知識と適切な対応法の習得 全職員の、AED 取扱や心肺蘇生法の習得 予め示した避難経路に基づき、全校生徒が迅速・適切な避難をすることができる。 生徒の防災意識の向上と、主体的に考え行動する力の育成 	B	今年度のようなコロナ禍の中だからこそ「感染症対策とアレルギー疾患について」の現職教育を6月に実施。しかし、準備を進めていた「AED を用いた心肺蘇生法講習会」は夏休み短縮に伴う行事予定の見直しで実施できなかった。「防災スクール」は過密を避けた実践活動ということで、複数のメニューを設け関係機関の協力を得て実施。	安心・安全な学校を実現するために、できるだけ年度当初で、防災意識と緊急事態発生時の主体的な行動を促す取り組みを実施する必要がある。「防災スクール」は新たな取り組みとして一定の成果があったが、毎年開催するには内容の更新や多くの協力が必要となるため、検討しながら充実を図りたい。
2	高等教育機関への進学を希望している生徒に対し、その基盤となる知識・技能を定着させることが現在の課題である。昨年度3月より休校が続いたため、生徒に学習意欲や目的意識を持たせ、学習時間を増加させるとともに、主体的・能動的な学習態度を育成する取組がこれまで以上に求められている。	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休校の中においても学習意欲や集中力を喚起する取り組みが各科目において展開されているか。 生徒の実態把握に努め、実態に応じた指導がなされているか。 教科の教員が全体として学習指導方法の改善に取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な教材や動画配信等による、臨時休校中における学習支援の充実 3年生の講座別授業の企画・運営 成績不振者に対する学習支援 自宅学習支援の状況 オンラインを含めた質問対応の実施状況 配信動画再活用のためのアーカイブ化 追認調査対象者の学習指導状況 学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導 実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合減少 家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科内外での情報交換協議 学年会・教科会での情報交換、協議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個人学習支援の状況 オンラインを含めた質問対応の実施状況 配信動画再活用のためのアーカイブ化 追認調査対象者の学習指導状況 学年会・教科会での情報交換、協議の実施 実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合減少 	B	4月、5月の2ヶ月にわたる臨時休校により、例年よりも1割以上の授業時間が失われたが、その期間に250本以上の動画を配信して学習支援を行った。結果として、ほとんどの教科においては学習進度を例年通りに進めることができた。多数の生徒は主体的な学習態度が身につけている一方、学習時間30分以下の生徒も15%存在する。	今年度、夏期休業の短縮により実施できなかった3年生の夏期補習や夏期学習支援プログラムを実施し、更なる学力保障に努めたい。 令和4年度より実施される新学習指導要領に向けて、観点別評価などのあり方を検討する必要がある。 配信してきた動画を今後も有効活用できるようにしたい。
3	生徒の多くは、文武両道を実践しようとする意志を持って入学してくる。しかし、自分の持つ才能や能力を十分に活かせる将来設計や、大学選びが出来ていない生徒も少なくない。特に2年生からの「系」選択により、自分自身の進路目標を明確にした必要な努力をするための学習集団は出来ているので、「系」の目的に対応した授業を実施し、必要な学力を身に付けさせる。また、すべての生徒の基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的かつ自主的に学習できるように、具体的な取組が系統立てて展開されているか。 社会に貢献できる社会人となるための、大学進学等に関わる情報提供などが、組織的・効果的に行われたか。 「系」ごとの授業内容にそれぞれの「系」が目的とする差違はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「経験」「思考」「発信」「振り返り」のサイクルによるキャリア発達 興味ある学問と社会課題解決のための関わりを意識させる取り組み 「進路だより」、入試説明会による情報提供や生徒への継続的な働きかけ、現在の状況に応じたオープンキャンパス、桐蔭総合大学等への適切な参加の啓発 学年集会や面談等を工夫し、現状に応じて、生徒の自己分析と課題の発見を促し、高い志望を持ちあきらめさせないよう生徒を支援 現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施 中高職員による課題の提示と協議、合意形成、生徒学力の分析検証 「学びの丘」と連携した授業に関する研究テーマの設定と分析についての協議会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の振り返り文章 R80 による自己分析と課題設定が出来たか 「考える機会」の場面設定が出来ていたか。 「進路だより」の内容と発行時期 参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査 難関大学への出願者数120名 進路アセンブリーの内容と持ち方、実施時期 1年生、2年生の「系」選択検討会実施 3年生の進路検討会の実施 FD会議等での情報意見交換会の実施 授業テーマの設定方法と研究授業後の分析及び協議の在り方のベースを作る 	B	各学年をはじめに「つきたい30」全項目の自己評価を実施し年度発達を見るようにした。 コロナ対策のため合意形成の柱となる協議が行えなかったが、個人レベルでの思考の整理と発表は実施できた。 SDGs を軸にした学年進行による取り組みを実施できた。 「系」選択は生徒自身の意思決定で行われたが自己分析に課題を残した。 学びの丘との連携により研究授業および協議のモデルスタイルは構築できた。 定期的に発行した「進路便り」を通じて情報提供を行った。 担任による面談等を通して自身が取り組むべき課題を明確にし、進路意識を高めることができた。 今年度は感染症拡大防止の観点から学年アセンブリーや保護者向け進路説明会等は実施できなかった。	キャリア桐の業での実施項目に対する自己評価にルーブリック評価を導入していきたい。 SDGs を軸にした取り組みの不足点を改善しより密接に自身の進路目標および「系」選択に結びつけていかせたい。 「系」による授業がより実効性を高められるよう職員全員で課題を共有し改善していく。 研究授業および協議のモデルスタイルをより多くの教員で実行していく。 オンラインでオープンキャンパスを実施する大学が増えている、また大学入試が多様化しているなかで、今まで以上にこまめに情報提供できるように努める。 進路検討会の実施方法等について検討していかなければならない。
4	生徒は概ね規律ある学校生活を営んでいるが、一部に遅刻、身だしなみの課題を残している。また、心の課題を抱える生徒への支援の要請が強まっており、欠席の多い生徒への早期対応が求められる。交通安全面では昨年度、自転車による事故が多数見られ、意識改善の必要性がある。生徒が安心して過ごす学校環境の維持と即ちその充実を図り、挨拶を皮切りに自ら踏み出すことへの積極性を育てる意識を職員共通のものとする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自律的に行動し自己管理能力、危険回避力を高める支援のための重点項目としての、 遅刻、下校指導 交通安全指導 身だしなみと持ち物の管理指導 相談体制の組織化と効率化 職員からの声かけ、挨拶の励行 中高を一貫しての生徒指導が適正に行われているかどうか。 自主的活動の時間が確保できているか。 自主的活動のデータが蓄積できているか。 課外活動の案内を適切にできているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己責任の遅刻を3回以上繰り返す生徒への指導。 日常的な身だしなみ指導。 自転車事故防止に向け、警察等と連携した交通安全教室等の実施 交通安全指導 交通規則のセーフティーカード発行数50件以下。 毎月の登校時の校外指導の実施。 警察と協力しての自転車無施錠指導 挨拶の意義の啓発 教育相談体制の充実。 生徒情報の共有と把握による生徒理解、並びに具体的な手立ての共有。 生徒会や各実行委員会の活性化と生徒が主体的に関わる行事計画 LHRの時間の確保 部活動への積極的参加と主体的な活動支援 「総合的な探究の時間」との連携 ボランティア活動等の外部活動の案内 校外活動の紹介数。 	<ul style="list-style-type: none"> 通年遅刻者数の増減と個々の事情の把握。 警察やPTAと連携した交通指導 交通事故の発生件数とその把握。 駐輪場の施錠率及び使用状況。 来校者など外部からの提言。 カウンセリング室利用状況。 ケース会議の実施状況。 情報共有の具体的手立て。 計画的な時間確保と実施内容が適正であるか。 部活動加入率100%以上 学びのデータの蓄積ができたか。 校外活動の紹介数。 	B	8～12月の間に自転車による交通事故が10件以上あった。 駐輪場の施錠率は常に70%以上を維持したが昨年より低い数字にとどまった。 感染拡大を防ぐため、従来と違う形式での防寒着の着用を認めたが、大きな問題はなかった。 休校期間が長期化したことによる教育相談やケース会議が複数あったが、速やかに実施対応でき、情報を共有することができた。 今年度は感染症拡大防止のため十分な活動が出来ず。出来る範囲での活動にとどまった。 課外活動の募集も少なく、ほとんど紹介できなかった。	被害者としての自転車事故が大半であったが逆走・イヤホン着用に対する指導・注意喚起を継続して行う必要がある。 休校期間中、心に不安を抱えた生徒が複数見られた。継続して手立てが必要な生徒もいるので、今年度の情報や、対応方法を参考に次年度以降も速やかに対応していく。 今年度の活動状況を踏まえながら、実施内容を検討し、今出来ることは何なのかを職員および生徒で構築していく必要がある。
					学校関係者からの意見・要望・評価等 学校運営協議会から 【意見・要望】 ①桐蔭生には、その高い能力を発揮し、輝く人生歩んでいってもらうためにも、大切な高校時代を漂流するだけに終わる人にはなってもらいたくない。 ②進路について新しい情報等、タイムリーに教えていただきたい。 ③キャリア教育でのサポートを引き続き行いたい。 ④高校3年間で、将来どのような仕事に就き、何をしたいのかをある程度明確にし、それを目標に頑張ることが何よりも大事なことかと思う。 ⑤生徒の自主性や自宅での生活状況は、見えにくいと感じるが、生徒が感じる「楽しさ」「充実度」につながる工夫の継続をお願いしたい。 ⑥今後は、桐蔭中高を卒業した方々の話などを取り入れ、生徒が興味を持つキャリアなどを知る機会につながる支援を期待したい。 ⑦内部進学生と、高校からの生徒が、クラス内あるいは学年内で切磋琢磨し、成長することを願っている。 ⑧今後の新たな教育の構築に柔軟な発想で取り組んでいただきたい。 ⑨グローバルな人材を育てる教育、社会でリーダーとなる人材の育成のための教育をするためには、各教科の枠組みを超えた総合的な教育の取り組みも必要である。 ⑩思考力、判断力、表現力を育てるためには、対話型、ソクラティックメソッドを用いた授業等、工夫が必要となる。 【評価】 ⑪多様性の時代の中、様々な課題があるが、丁寧に向き合っている。今後も生徒達のために頑張っていきたい。 ⑫コロナ禍で大変な中、それでもできることはないかと模索しながら行事を実施したことはたいへん評価できる。 ⑬中学校のキャリア桐の葉・キュリオに代表されるように、生徒自らが考え、工夫し、発表する場が設けられており、このような活動を通じて、教えてもらうだけでなく、自ら学び、考え、行動する気質が育まれている。 ⑭4、5月の2ヶ月に渡る休校期間中に250本以上の動画を配信して学習支援を行った取り組みには驚いた。中には同じ動画を学習内容定着のため何度も繰り返し活用していた人も多くいたとことで、大変嬉しく思った。 ⑮よき伝統校のプライドを守れている。OBとして感謝したい。		